



漢字のパーツ

できることの実例

- ① 漢字を構成要素（パーツ）に分解したり、結合したりすることができる。

◎準備するとい物

単漢字のフラッシュカード、はさみなど

- I 既習の漢字「注」「線」「切」と、未習の漢字「思」を構成要素に分解します。

「思」は未習ですが、「田」は初級（「漢字のパーツ」）で既習、「心」はこの課の漢字です。「心」が入っている漢字は「忘」（初中級第5課）、「意」（初級第14課）が既習です。

まずは本を見ずに、フラッシュカードで確認したり、漢字のカードをはさみで切って分解するなどすると、より楽しくできるかと思います。

【教室でのやり取り例】

T：〈「切」（「注」「線」）のカードを見せながら〉この漢字は何ですか。

L：きります。

T：そうですね。

では、この漢字をはさみで切りましょう。どこで切りますか。〈学生にカードを渡してみる〉

L：〈左右に切る、折る、線を引くなど〉ここです。

T：パーツはいくつですか。

L：2つです。

T：では、他の漢字もやってみましょう。

*ここで「思」のカードを追加します。「思」は未習なので、読み方は教師側からは問いかけません。学習者から質問が出たら、紹介します。

T：バラバラになりましたね。このパーツも、1つの漢字です。

〈「刀」のカードを見せながら〉何だと思えますか。

L：ちから？

T：「力」と似ていますが、上の部分を見てください。ちょっと違いますね。

〈ヒントとして「切」を見せながら〉これは何ですか。

L：切ります。

T：切るとき、何を使いますか。

L：ナイフです。

T：これは、ナイフの意味です。日本の「かたな」です。

◎覚え方のヒントと留意点

55「心」

心臓のイラストを描き、漢字と重ねてもいいかと思えます。



56「主」

初級で学習した「注」「住」と同じパーツですが、読み方が異なることを確認します。

IVで、再度、確認してもいいかと思えます。

57「糸」

糸巻きのイラストで紹介すると、わかりやすいでしょう。



58「刀」

既習の「切」から「切る物＝ナイフ」という連想ができます。

ポイント

①③…字形が似ている漢字の問題

②…読み方の問題

Ⅲ ①②は初級で既習の漢字です。①は「予約」（初級第 13 課）＝「約束を糸でつなぐ」、②は「意見」（初級第 14 課）＝「気持ち、心」という推測ができます。

③は文脈から「はじめて」が推測できるかと思えます。「刀で切って、新しいことを初めてする」という推測を促してみてください。④も文脈から「てがみ」を推測し、「人と人をつなぐもの＝糸」という発想を促してみてください。「初」「紙」は初中級第 11 課で勉強しますので、この段階では紹介に留めます。

Ⅳ 既習漢字を、今日の漢字を使って整理してみます。学習者から未習漢字が出た場合は、共有に留めます。

* 第 6 課以降でこのテキストに出てくる漢字を、参考までに（ ）に記しておきます。

心：意、忘（初中級第 15 課：思、悪）

主：注、住

糸：線、約、終（初中級第 11 課：紙）

刀：切、分（初中級第 11 課：初）